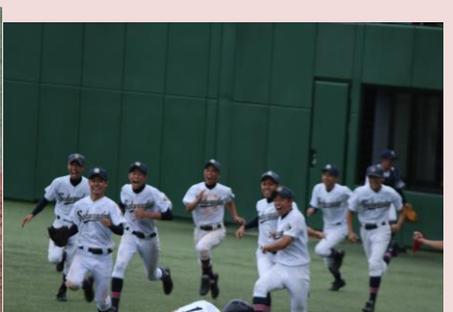


# 桜台高校野球部



# 文武両道で熱い青春を送ろう！

名古屋市立桜台高等学校

野球部監督 加藤 直樹

TEL(052)821-0186

## 〈 桜台高校野球部の取り組み 〉

甲子園出場が最大の目標ですが、まずは、夏の大会5回戦に進出すること、春季大会・秋季大会の県大会に出場し3回戦に進出することなど、桜台高校野球部の新しい歴史を刻むことを大きな目標としています。

毎週土曜、日曜は、甲子園出場経験のある名門校や強豪私学・県外強豪校・県大会常連校などとも練習試合を重ねることで野球観を高めるとともに課題を見つけています。そして、毎日の練習を通して課題を克服し、精神力・技術・体力を向上させ、目標達成に向けて頑張っています。

野球部員は、文武両道を実践し、「最小時間・最大効率」をテーマに、主体性を持って野球部の練習に一生懸命取り組んでいます。また、野球や勉強だけでなく学校生活・家庭生活にも自主自律を意識し、毎日充実した生活を送っています。野球部では、「心が身体を動かす」、「心が変われば……人生が変わる」など「心」をテーマに、礼儀を重んじ、人間的成長を大切にしながら活動しています。

野球部員は、優しくまじめな生徒ばかりです。野球の技術や体力はまだまだ成長途中ではありますが、高校野球に真剣に取り組む姿勢は素晴らしいものがあります。チームには、明るく元気で前向きな雰囲気があります。大好きな野球を頑張ることは当たり前。その環境を支えてくれるすべての人に対して感謝する気持ちを大切に、感動を与えられるチームを目指しています。

また、卒業後の進路ですが、多くの生徒は、名古屋大学・名古屋工業大学・愛知教育大学・名古屋市立大学・三重大学・静岡大学など東海地区の国公立大学を目指しています。また私立大学では、慶応大学・早稲田大学・同志社大学・立命館大学・南山大学などへの大学進学を視野に入れながら野球と勉強の両立を目指しています。

## 〈 中学3年生の野球が大好きなみなさまへ 〉

野球が大好きで、大学進学を目指し、文武両道のもと真剣に高校野球をしたいという思いがありましたら、ぜひ桜台高校を進路の選択肢に入れてください。きっと充実した高校生活を送れるはずですよ。

発展途上のチームですが、まずは、夏大会の勝利、春季大会・秋季大会の県大会出場、市立大会優勝を目標にしています。そして、桜台野球部の新しい歴史「春・秋の県大会3回戦」「夏大会5回戦」、その先にある甲子園出場を目標に、毎日一生懸命練習に取り組んでいます。

桜台高校の野球部員は、優しくまじめで何事にも一生懸命取り組む生徒ばかりです。

野球の技術や体力はまだまだ成長途中ではありますが、高校野球に真剣に取り組む姿勢は素晴らしいものがあります。ぜひあなたも桜台高校野球部の一員となって、青春を高校野球で謳歌してみませんか。

現在、部員3年生9名、2年生12名、1年生10名、女子マネージャー2名の計33名(R4.5.1現在)で活動しています。

野球が大好きで真剣に高校野球に取り組みたい人は、ぜひ桜台高校でその力を発揮してください。

文武両道が不安な人もいるかと思いますが、先輩たちも国公立大学を目標に野球と勉強を両立させています。練習後に塾に通って勉強している部員もたくさんいます。限られた練習時間の中で、高いレベルの文武両道を目指して一緒にチャレンジしていきましょう。

一緒に野球を通じて成長できることを楽しみに待っています。

お聞きになりたいことがあれば、監督の加藤（桜台高校 821-0186）までお気軽にお問い合わせください。

## 〈令和4度 秋季大会 名古屋地区予選 1次予選惜敗〉

名古屋地区一次予選は、名経大高蔵・名市工芸・菊華・桜台・瀬戸北総合の5校ブロックでした。

1回戦の瀬戸北総合戦は、1年生投手が持ち味を発揮し、攻撃陣が積極的な打撃で援護する理想的な展開に持ち込むことができました。5回以降は好機に長打が出て14対5の7回コールドで勝つことができました。

2回戦は、シード校の菊華高校との試合でした。前チームから引き継いだ「打倒私学」に向けてチームが一つにまとまり、集中力高く試合に臨むことができていました。2回に失策から先制点を取られ、4回には2死から2点タイムリー安打を打たれ劣勢になりました。しかし、生徒の集中力は途切れることなく4回の攻撃では効果的に打線がつながり4得点で逆転することができました。投手八城も安打や失策で出塁は許すものの3つの併殺などで要所を凌いでいました。しかし、7回にこの試合初めての四球をきっかけに2死から相手の勝負強い打撃で2点を取られ再逆転されてしまいました。8回走者2塁、9回走者3塁と一打同点の好機を作りましたが、相手投手に気迫で上回れ、得点に繋げることができませんでした。結局4対5で試合終了となり、目標の「打倒私学」を果たすことはできませんでした。2死から好機での勝負強い打撃が勝敗を分けた試合でした。

敗者戦は、同じ市立の名市工芸高校との試合でした。初回に長打2本を含む4本の安打を打たれましたが、外野からの中継プレーで選手同士の声の連携やプレー判断がうまくでき、1失点で切り抜けることができました。3回の攻撃では、2死から6本の安打を積み重ね7得点で主導権を握ることができました。2回以降は投手が立ち直り2安打に抑え、8対2で勝つことができました。

ブロック2位決定戦は、夏大会のメンバーが多く残っている名経大高蔵との試合でした。雨上がりの猛暑で、グラウンド状況が悪く湿度の高い中での試合になりました。暑さと湿度で集中力と体のキレがいつもの状態まで上がらず試合に突入してしまいました。3回に2死からタイムリー安打で先制することができました。しかし、3回の裏に同じく2死からタイムリー安打で同点とされ、4回には失策が3つ重なり無安打で逆転を許してしまいました。さらに5回に連打で追加点を奪われました。6回の攻撃で2死からのタイムリー安打で1点差に持ち込みました。持ち前の後半の粘り強さが発揮されることを期待しましたが、相手投手の継投にうまくかわされ、結局2対4で負けてしまいました。前日の試合でケガをした主戦投手の代わりに投手陣が頑張りましたが、相手投手陣の無四球に対して9四死球を与えたことが試合の流れや攻撃のリズムを狂わせてしまい、大きな課題になりました。

5年ぶりに1次予選敗退となり悔しい秋季大会になりました。この悔しさを胸にしっかりと課題と向き合いながら秋季・冬季の練習に取り組み、春季大会では「県大会出場」を掴み取り、さらに上を目指せるチームに成長したいと思います。

## 〈令和4度 市立大会優勝（台風の影響で決勝は中止）〉

新チームが始まりました。部員で話し合い、主将に草野が決まりました。草野を中心にまとまりのあるチームに成長することを期待しています。新チームは、3年生のケガの影響もあり、夏大会を経験している生徒が多いことが特徴でもあります。それに加え、1年生が高校野球にも慣れ、猛暑の中の練習に意欲的に取り組み、自分の持ち味を発揮しはじめていることを心強く感じます。

夏休みは、市立大会優勝と秋季大会県大会出場を目標に、チーム目標や徹底事項を再確認して、課題や戦術を共有しながら、徐々に勝つためにやるべきことが整理されてきています。桜台野球部の良さである「明るく・元気に・前向きに」一体感のあるチームを引き継ごうと頑張っていますが、まだまだ3年下村の域までは達していません。

市立大会 1 回戦向陽高校戦は、新型コロナの影響で向陽高校が出場辞退となり不戦勝という形になりました。力のあるチームで、自分たちがどれだけやれるか生徒も楽しみにしていたのでとても残念でした。

2 回戦の名東高校戦は、夏大会を経験している八城が安定した投球をすることができました。打撃は積極的に仕掛けることができ 18 安打で 10 点を取ることができ、10 対 3 の 8 回コールドで勝つことができました。1 年生が初めて背番号を着けベンチに入り、ベンチやグラウンドで活躍する姿がとても頼もしく見えました。

しかし、9 月 19 日に予定されていた決勝戦は、台風の影響により中止になりました。昨年のコロナによる中止に続き 2 年連続の中止です。生徒は今年こそ決勝を戦い、優勝を勝ち取ると強い気持ちで練習に取り組んできただけにとても残念です。決勝戦の相手菊里高校と両校優勝という形になりましたが、目標の優勝という結果は価値のあるもので今後の自信に繋げていきたいと思えます。

## 〈令和 4 度 夏の大会 2 回戦進出〉

3 年生は入学と同時にコロナによる学校休校が続き、部活動禁止期間を何度も繰り返し、通常通りの野球部の活動ができずコロナに翻弄されてきた学年でした。しかし、そのような厳しい状況の中でも今できることを精一杯やろうと心をぶらすことなく野球部の活動に取り組んできました。しかし、活動禁止の影響は思いのほか大きく、3 年生にけが人が多く出てしまいました。夏大会前には、もう少しで復帰できる生徒が何人もいました。そこで、チーム全員が心を一つにして、けが人が戻ってベストメンバーで試合ができるまで勝ち続けよう「桜台には負けれない理由がある」と大会に臨みました。

夏大会 1 回戦は豊田高専戦でした。2 年生投手八城が先発をしました。立ち上がりは緊張から四球を出しましたが、1 死満塁を併殺で切り抜けるとその後は安定した投球を取り戻し、5 回を無失点に抑えることができました。攻撃では、1 回・3 回に川原林のタイムリー安打で先制点、追加点を挙げ、流れをつかむことができました。4 回には 3 年生の活躍で一挙 7 点を取り試合を決め、10 対 0 で 5 回コールド勝ちをすることができました。

2 回戦の吉良高校戦では、1 回 2 回に 2 死からタイムリー安打を打たれ 3 点の劣勢から試合が進みました。試合の流れを引き戻す 1 点を前半に取ろうと攻撃と仕掛けましたが、2 回 4 回に併殺で好機を生かせず、3 対 0 のまま後半を迎えました。6 回にスクイズで追加点を取られ試合展開が後手になってしまいました。8 回にようやく 2 点を得点することができ、持ち前の粘り強さが出始めましたが、9 回にも失点し突き放されてしまいました。5 回以降毎回好機を作り、あと一本安打が出ると大きく試合展開が変わる状況でしたが、相手の好守に阻まれ好機を生かすことができませんでした。相手を上回る 9 本の安打で好機を作りましたが、好機での一本が出なかったことが残念です。吉良高校は、基本や戦術が徹底されており、とても守備力の高い、隙のないチームでした。

コロナの影響を強く受けた 3 年生ですが、心をぶらすことなく「打倒私学」「県大会出場」を目指して、主将佐藤を中心に「自覚と責任」「主体性」を高め成長し続けた学年でした。副将下村の「明るく・元気に・前向きに」高校野球に取り組む姿勢は桜台高校野球部の象徴でもありました。いろいろな困難を乗り越えた 3 年生は、今後どのような状況でも困難をたくましく乗り越えてくれると期待しています。

## 〈令和 4 度 春季大会 名古屋地区予選 1 次予選惜敗続〉

秋季大会 2 次予選の県大会決定戦で中京大中京に大敗し、もう一度野球への取り組み方や日常生活の大切さを確認し、「打倒私学」を目指して秋・冬の練習に臨みました。生徒の意識の高まりは順調で、1 月から 3 月にかけてのコロナまん延防止措置による活動禁止期間中は、「自覚と責任」をテーマに、主体性を発揮し

て部員それぞれが意識高く練習に取り組みました。しかし、活動禁止期間の影響は大きく、練習開始1週間で投球骨折やデッドボールで3年生二人が骨折し、腰痛、肩痛などが頻発してしまいました。このような状況でも持ち前のチームの一体感を大切に、「明るく・元気に・前向きに」今できることを精一杯取り組もうと春季大会に臨みました。

1回戦の中部大一高校戦では、目標にしてきた「打倒私学」を実現しようと、集中して試合に臨みました。

初回の攻撃で先制点を取り、主導権を握ることができました。中盤は、ミスからの失点で逆転されてしまいましたが、持ち前の粘り強さで7回・8回の好機にタイムリー安打が出て8回に4対4の同点に追いつき、最終回を迎えました。9回の攻撃は併殺打で好機を逸してしまいました。9回裏に四球・安打の走者を進塁させられ、申告敬遠で満塁策をとりましたが、安打を打たれサヨナラ負けで目標の「打倒私学」を逃してしまいました。中盤のミスが悔やまれますが、投手飯山が持ち味を発揮して粘り強い投球をしました。

続く敗者戦1回戦は、長久手高校との試合でした。前日のサヨナラ負けから気持ちを切り替えて、チームの一体感を大切に試合に臨みました。先頭打者柳生の二塁打で一気にチームの雰囲気盛り上がり、初回から効果的に得点を重ね、前半で試合の流れをつかむことができました。投手の柳生・大橋が四球を出しながらも要所を締め3失点に抑えました。10対3の7回コールド勝ちを収めることができました。

2位決定戦は、市立大会でコロナ感染拡大のため決勝戦が中止となり、優勝を分け合った富田高校でした。

春日井球場での試合になり、生徒の集中力はとても高く、この試合に懸ける思いが強く感じられました。初回にミスから失点しましたが、2回の攻撃で同点に追いついた後、満塁の好機に走者一掃の二塁打が出て一気に4点を取ることができました。しかし、続く3回の守りでは3安打4四球で5点を取られてしまいました。中盤も四球・失策で出塁した走者を得点に結びつけられ5点差に広げられてしまいました。終盤に川原林の本塁打が出るなど持ち前の粘り強さを発揮し1点ずつ積み重ねましたがましたが、一打同点の好機を二度ありましたが得点することができず、7対9で負けてしまいました。二番手投手の八城が好投していただけに投手交代のタイミングが遅れたことが悔やまれます。

「打倒私学」「県大会出場」を目指して臨んだ大会でしたが、あと一步のところまで目標達成することができませんでした。この悔しさを胸にコロナでの活動制限がある中でも、「自覚と責任」「主体性」を高めて活動に取り組み、けが人の復帰を期待しながら、夏の大会に向けて成長していきたいと思います。

## 〈令和3度 秋季大会 名古屋地区予選

### 二次予選進出も県大会決定戦で中京大中京に完敗〉

秋季大会はBブロック、瀬戸・桜台・愛産大工業・昭和（他1チーム辞退）のトーナメントでした。

1回戦の瀬戸高校戦は、1回・3回に二死からタイムリーを打たれ2点先行されてしまいました。しかし、3回の攻撃で打線がつながり3得点で逆転し、4回・5回にも1点ずつ取り流れをつかんで5対2で前半を折り返すことができました。しかし、5回終了後のグラウンド整備中に雨が降り出し、6回の守備ではかなり強い雨になりました。雨の中で投手の制球が乱れ、ぬかるんだグラウンドで打ち取った打球もアウトにすることができずに3四球2失策などで一挙5点を取られ、7回にも2点を取られてしまいました。相手投手は、ストライクゾーンにどんどん投げ込みリスクを回避した投球ができていました。結局、7回にさらに雨が強くなり、試合継続困難になり降雨コールドで負けてしまいました。

敗者復活1回戦の昭和高校戦は、序盤から得点を重ね主導権を握り、6回表で10対0になりました。あと1イニング抑えるとコールド勝ちが決まるところでしたが、6回1点、7回3点を取られてしまいました。試合は10対4で勝つことができました。

2次予選進出を懸けたブロック2位決定戦は、ふたたび瀬戸高校との試合になりました。1回戦雨天で制球を乱した飯山に、再度期待を込めて先発を託しました。立ち上がりには1点は取られたものの、その後は粘り強く丁寧に投げ抜き、エラーが絡んで2失点しましたが、9回を6安打2四球3失点で好投しました。打線も飯山の好投に応え、4回に7本の安打で一挙6点を挙げ試合の流れをつかみ、6回・7回にも手堅く1点ずつを加え、8対3で勝ち、雨天コールドの悔しさを晴らすことができました。

2次予選1回戦は、旭丘高校との試合でした。先発柳生は、序盤から制球が甘く、4回までに9本の安打を打たれながらも要所で併殺を取るなど野手がしっかり守りました。打線も4回に下位から上位に打線がうまくつながり5得点し、流れを持っていくことができました。7回・9回にもスクイズなどで1点ずつ加え、7対2で勝つことができました。

県大会決定戦は、相手が中京大中京高校でした。誰もが知る全国区の強豪ですが、名前負けせずに自分たちの持ち味を出して、粘り強く戦い抜こうと臨みました。しかし、先発柳生が意気込みすぎて、初回に無安打ながら3四死球とエラーで先取点を奪われてしまいました。2回には、スクイズで1点を取られた後、二死満塁でショートゴロをファンブルしてしまい、動揺した雰囲気が一気に広がってしまいました。まだ序盤での3点差なので、タイムを取り気持ちを落ち着かせようと思いました。しかし、気持ちの動揺を立て直す隙を与えてもらえず、一気に攻め立てられ6連打などで一方的な展開になり、自分たちの持ち味が出せないまま勝負が決まってしまいました。

しかし、この試合から学んだことは多く、野球への取り組み方や試合への準備の仕方、一球に対する執着心、チームの一体感などを吸収し、成長につなげていきたいと思っています。

この大会を通して、手応えと課題がはっきりしました。今後には生かして、春季大会は必ず県大会に出場したいと思っています。

## 〈令和3度 市立大会優勝（緊急事態宣言で決勝は中止）〉

新チームがスタートしました。3年生が引退し、レギュラー争いが横一線から始まりました。2年生が最上級生として自覚を持ち、1年生がはつらつとプレーしている姿が頼もしく感じます。市立大会優勝と秋季大会県大会出場を目指して、夏休みの猛暑の中の練習や練習試合に臨みました。課題はたくさんありますが、徐々に勝つためにやるべきことが整理されてきています。桜台野球部の良さである「明るく・元気に・前向きに」一体感のあるチームを引き継ごうと頑張っていますが、まだまだです。

市立大会1回戦名東高校戦は、肩の故障を乗り越えて、新チームスタートに間に合わせた飯山の好投もあり6対2で逃げ切ることができました。夏休み中の試合は、猛暑の中での試合が続くので6対0からコールドを決めるあと1点が取れないことが大きな課題でした。

2回戦の名市工業戦は、エース争いを期待する柳生が、立ち上がりの連続四球から立ち直り、粘り強く投げ、6回2失点で切り抜けることができました。打線も前日の反省を生かして、機動力を使いながら好機に安打が出て11対2で7回コールド勝ちにすることができ、決勝進出を決めました。

秋季大会を控えたこの時期にパロマ瑞穂球場の広いグラウンドで試合ができることは大きな経験になります。また、この2試合を勝ったことでチームとしても大きな自信が芽生えはじめました。

しかし、9月20日に予定されていた決勝戦は、コロナによる緊急事態宣言のため中止になりました。決勝戦の相手富田高校と両校優勝という形になりました。中止は残念ですが、目標の優勝という結果は大いに価値のあるものになりました。

## 〈令和3度 夏の大会 2回戦進出〉

4月の新学期が始まってから活動制限が厳しくなり、6月上旬まで休日の活動が禁止になりました。GWも活動することができず、休日の活動が解禁になったのが6月中旬でした。生徒が一番成長できる時期に練習試合や実践練習ができなかったことは残念でしたが、生徒は今できること、やるべきことを明確にして、心をぶらすことなく主体的に取り組んでいました。

1回戦は、名古屋工業と対戦しました。夏の大会独特の緊張感がありましたが、1回表の守備で二死満塁のピンチを切り抜け、1回裏の攻撃で1番藤田の左前安打で勢いに乗ることができました。中野・星子・佐藤の勝負強い打撃で1回3点、2回3点を取り主導権を握ることができました。先発星子も粘り強く投げ、1失点完投し、7対1で勝つことができました。

2回戦の明和高校は、激戦の名古屋地区から公立校として連続で県大会に出場している力のあるチームでした。相手を分析して臨んだ試合でしたが、警戒していた1・2番打者に安打されて勢いの乗せてしまい、1回3失点、2回6失点と主導権を握られ、桜台らしさが出せないまま終わってしまいました。二番手投手荒川が持ち味を出して3イニングを無安打に抑える好投をしていただいただけに、悔やまれる立ち上がりでした。

昨年の4回戦進出を目標に臨んだ大会でしたが、結果としては残念なものになりました。しかし、コロナ禍で思うように活動できない中でも、心をぶらすことなく主体的に野球に取り組み、秋季大会では、9年ぶりの県大会出場をつかみ取ってくれました。3年生はとても仲の良い学年で、3年間の野球部の活動を通して、技術・体力の成長とともに、心の成長を大きく実感することができました。

## 〈令和3度 春季大会 名古屋地区予選 決定戦で県大会逃す〉

秋季県大会に出場し、自分たちはできるんだという自信を胸に、敗戦からの課題を明確にしながら冬の練習に取り組んでいました。しかし、コロナ感染拡大による緊急事態宣言、まん延防止措置により1月以降練習ができない状態が続きました。特に市立高校の活動制限は厳しく、ぶっつけ本番の状態で大大会に望まなくてははいけませんでした。

1回戦の春日井西高校戦では、実戦不足もあり、立ち上がりに連打で2点を先制される嫌なスタートでしたが、中盤から打線がつながり10対3の7回コールドで勝つことができました。

ブロック決勝の大同大大同戦は、好投手から点を取ることが勝負の鍵として臨みましたが、外角球の出し入れに対応できず、得点することができませんでした。投手も前半はよく粘っていましたが、4回に4四死球と送球ミスもあり一挙6失点で勝負が決まってしまいました。

シード校として臨んだ大会で1位通過を目指していただけたこととても悔しい思いをしました。

気持ちを切り替えて臨んだ2位決定戦は、同じ市立高校で厳しい活動制限の中チームを仕上げてきた名東高校でした。試合の入り方を大切にしようとして臨んだ試合でした。生徒の集中力は素晴らしく、1回の攻撃で5連打を含む7安打を集中させ、9番打者が満塁本塁打を打つなど、一挙8点を取ることができました。最終的には12対5で2次予選進出を決めることができました。

2次予選は、秋季大会で県大会に出場したことで1回戦シードとなり、決定戦1試合に勝てば県大会が決まる試合でした。相手の豊明高校は粘り強いチームで接戦になることを予想していました。

両投手とも持ち味を発揮して締まった投手戦になりました。4回に甘く入った球を2点本塁打されましたが、すぐに2点を返し、同点で終盤に入りました。7回に2塁打2本で1失点、8回に交代した1年生投手の四球と悪送球などで1失点しまいました。2点差の9回の攻撃では、無死2・3塁の好機を作りましたが、好機であると1本が出ずに2対4で負けてしまいました。

2季連続の県大会出場を目指して臨んだ大会でしたが、好投手からいかに好機を作り、得点につなげるか、

プレッシャーのかかる場面でいかに力を発揮できるかが大きな課題になりました。しかし、厳しい活動制限の中、主体的に取り組んできた成果が発揮された大会でした。

## 〈令和2年度 秋季県大会 1回戦敗退〉

9年ぶりに秋季県大会に出場することができました。

1回戦で碧南高校と対戦しました。久しぶりの試合ということもあり、チームの持ち味である一体感や明るさが影をひそめ、どこことなく硬さが感じられるところがありました。序盤から地に足がつかず、持ち味を出せないまま3回に先取点を取られてしまいました。3回以降は7回以外のすべてのイニングで先頭打者の出塁を許す苦しい展開になりました。何とか後半勝負に持ち込もうと粘り強く戦っていましたが、8回までに6点を取られてしまいました。攻撃も毎回のように安打は出ましたが、相手投手の低めに集める丁寧な投球に好機を生かすことができず、相手の好守にも阻まれ8回まで得点を奪うことができませんでした。しかし、9回に代打で出場した1年生たちの活躍で3点を取り意地を見せることができました。伝統の後半の粘り強さをを見せてくれました。

コロナ感染対策による市立高校の練習試合禁止が解除されず、地区予選後練習試合ができないままこの県大会を迎えました。また、猛暑時期の熱中症対策による練習禁止期間もあり、調整不足は否めませんでした。しかし、この状況を部員は誰ひとり言い訳することなく、自分たちの力のなさに目を向けて敗戦から課題を見だし、春季大会を見据えて常に前に進もうとしている生徒たちの姿は、とても誇らしく思います。

この県大会での悔しさを晴らすべく、一回りも二回りも成長した姿で春季大会に臨みたいと思います。応援ありがとうございました。

## 〈令和2年度 秋季大会 名古屋地区予選 県大会出場決定〉

新チームで迎えた秋季大会では、名古屋地区1次予選の名市工芸戦、瀬戸窯業戦を2連勝で勝ち抜き、ブロック1位で県大会出場を決めることができました。コロナ感染対策による練習時間削減や猛暑の中、選手はチームモットーの「一心」でチームがまとまり、明るく元気に粘り強く戦いました。

続く名古屋地区決勝トーナメントでは、1回戦名経大市邨高校との対戦でした。昨年の秋季大会で、ブロック2位校による県大会決定トーナメントで2対3のサヨナラ負けを喫した相手です。捕手中野の工夫した配球に1年生投手が丁寧に投球し、粘り強く接戦に持ち込むことができました。9回に2点を奪い3対2で逆転勝ちをすることができました。

決勝トーナメント2回戦は中部大春日丘との対戦でした。点の取り合いの展開になり、7回終了時点で5対7と強豪相手に粘り強く戦っていましたが、8回2失点・9回3失点で突き放され、最終的には5対12で負けてしまいました。1回・6回・7回の3度の満塁の好機をダブルプレーやスクイズ失敗などで得点できなかったことが悔やまれます。また、投手陣の層の薄さが露呈しました。2年生投手陣の奮起、打撃の向上、ワンプレー・1球の大切さなど、県大会に向けて大きな課題を得ることができました。

3年連続であと1歩のところまで県大会出場を逃した先輩たちの悔しい想いを、予選ブロック1位通過という形で「県大会出場」を決めることができました。先輩たちの想いも胸に9月12日からの県大会で桜台高校らしい試合を展開していきたいと思います。

## 〈令和2年度 夏季大会 4回戦進出〉

令和2年度の夏の大会は、コロナ感染防止対策の学校休校の影響もあり、十分な練習や練習試合などの実戦経験を重ねることができませんでした。しかし、休校中や少ない練習時間の中で生徒一人ひとりが自覚を持ち、自主自立で主体的に練習を工夫して努力を重ねてきました。

夏季大会は、市立高校の練習開始日程が遅れたことを考慮していただき2回戦からの出場になりました。

2回戦の名東高校戦では、緊迫した投手戦になりましたが、伝統の粘り強さを発揮して、終盤のピンチを凌ぎきり3対2で勝つことができました。

3回戦の天白高校戦は、平成30年度に3回戦で負けた相手でもあり、生徒の「絶対勝つ」という強い気持ちと集中力は素晴らしいものがありました。序盤から主導権を握り、理想的な展開で8対1の7回コールドで勝つことができました。

4回戦は至学館高校との対戦でした。2回戦4安打完投・3回戦3安打完投と好投した投手松原が、強豪至学館相手に逃げずに真っ向勝負で挑みました。甲子園出場経験のある強豪校は1枚も2枚も上手で、力の差を見せつけられる展開になりました。しかし、松井が相手のエース投手から本塁打を打つなど意地を見せてくれました。

試合は3対13で負けましたが、雨の中、桜台らしい明るく元気で前向きな姿勢を貫くことができました。

## 桜台高校野球部 大会成績

令和4年秋～令和5年夏の大会成績 (主将：草野)

秋季大会(R4.8)	市立大会(R4.8)	春季大会(R5.3)	夏の大会(R5.7)
〈1次予選〉 ○桜台14-5瀬戸北総合 ×桜台 4-5 菊華 ○桜台 8-2 名市工芸 ×桜台 2-4名経大高蔵	〈1回戦〉 ○桜台(不戦勝) 向陽 〈2回戦〉 ○桜台 10-3 名東 〈決勝戦〉 台風のため中止  優勝(両校)		

市立大会優勝

令和3年秋～令和4年夏の大会成績 (主将：佐藤駿)

秋季大会 (R3.8)	市立大会 (R3.8)	春季大会 (R4.3)	夏の大会 (R4.7)
<p>〈1次予選〉</p> <p>×桜台 5-9 瀬戸 (7回降雨コート)</p> <p>○桜台10-4 昭和</p> <p>○桜台 8-3 瀬戸</p> <p><b>※1次予選2位通過</b></p> <p>〈2次予選〉</p> <p>○桜台 8-3 旭丘</p> <p>×桜台0-14中京大中京</p>	<p>〈1回戦〉</p> <p>○桜台 6-2 名東</p> <p>〈2回戦〉</p> <p>○桜台11-2 名市工業</p> <p>〈決勝戦〉</p> <p>緊急事態宣言のため中止</p> <p><b>優勝(両校)</b></p>	<p>〈1次予選〉</p> <p>×桜台 4-5×中部大一</p> <p>○桜台10-3 長久手</p> <p>×桜台 7-9 富田</p>	<p>〈1回戦〉</p> <p>○桜台10-0豊田高専</p> <p>〈2回戦〉</p> <p>×桜台 2-8 吉良</p>

市立大会優勝

令和2年秋～令和3年夏の大会成績 (主将：酒井)

秋季大会 (R2.8)	市立大会 (R2.8)	春季大会 (R3.3)	夏の大会 (R3.7)
<p>〈1次予選〉</p> <p>○桜台12-9 名市工芸</p> <p>○桜台 8-0 瀬戸窯業</p> <p><b>※ブロック優勝</b></p> <p><b>県大会出場決定</b></p> <p>〈名古屋地区決勝トーナメント〉</p> <p>○桜台 3-2 名経大市邨</p> <p>×桜台 5-12 春日丘</p> <p><b>※名古屋地区5位</b></p> <p>〈県大会〉</p> <p>×桜台 3-6 碧南</p>	<p>中 止</p>	<p>〈1次予選〉</p> <p>○桜台10-3 春日井西</p> <p>×桜台 0-7 大同</p> <p>○桜台12-5 名東</p> <p><b>※1次予選2位通過</b></p> <p>〈2次予選〉</p> <p>〈県大会決定戦〉</p> <p>×桜台 2-4 豊明</p>	<p>〈1回戦〉</p> <p>○桜台 7-1名古屋工業</p> <p>〈2回戦〉</p> <p>×桜台 0-10 明和</p>

県大会出場

令和元年秋～令和2年夏の大会成績 (主将：佐藤頼)

秋季大会 (R 1. 8)	市立大会 (R 1. 8)	春季大会 (R 2. 3)	夏季大会 (R 2. 7)
〈1次予選〉 ×桜台 1-8 中部大一 ○桜台 8-2 春日井 ○桜台 8-3 名古屋 ○桜台11-1 日進守山 ※1次予選2位通過 〈2次予選〉 ×桜台 2-3×名経大市邨	〈1回戦〉 ×桜台 4-11名市工芸	中 止	〈1回戦〉 試合なし 〈2回戦〉 ○桜台 3-2 名東 〈3回戦〉 ○桜台 8-1 天白 〈4回戦〉 ×桜台 3-13 至学館

4回戦進出

平成30年秋～令和元年夏の大会成績 (主将：玉越)

秋季大会 (H30. 8)	市立大会 (H30. 8)	春季大会 (H31. 3)	夏の大会 (R 1. 7)
〈1次予選〉 ×桜台 1-5 瑞陵 ○桜台 4-3 春日井 ×桜台 1-14 昭和 〈2位決定戦〉 ○桜台 9-4 瑞陵 ○桜台 6-1 春日井 ※1次予選2位通過 〈2次予選〉 ×桜台 2-3名古屋工業	〈1回戦〉 ○桜台 8-7 菊里 〈2回戦〉 ×桜台 0-3 名東 〈3位決定戦〉 ×桜台 1-2 名市工業	〈1次予選〉 ×桜台 5-12 明和 ○桜台 5-1 山田 ○桜台14-1 名大附 ×桜台 0-4 明和	〈1回戦〉 ×桜台 1-10 日進西

平成29年秋～30年夏の大会成績 (主将：加藤敦)

秋季大会 (H29. 8)	市立大会 (H29. 8)	春季大会 (H30. 3)	夏の大会 (H30. 7)
〈1次予選〉 ×桜台 1-2名市工芸 ○桜台 7-3 中村 ×桜台 3-4 菊華 ○桜台 9-2 日進	〈1回戦〉 ×桜台 0-1 名市工芸	〈1次予選〉 ×桜台 4-5 名城大附 ○桜台 3-2名古屋工業 ○桜台 4-0 豊明 ×桜台 0-2 名城大附	〈1回戦〉 ○桜台 3-2 惟信 〈2回戦〉 ○桜台 5-3 名市工芸 〈3回戦〉 ×桜台 2-6 天白

# 過去10年間の野球部員の進路実績

## 国公立大学

- 〈中部〉 名古屋大学 ・ 名古屋工業大学 ・ 名古屋市立大学  
愛知教育大学 ・ 愛知県立大学 ・ 豊橋技術科学大学  
浜松医科大学 ・ 三重大学 ・ 岐阜大学 ・ 静岡大学 ・ 静岡県立大学  
信州大学 ・ 金沢大学 ・ 福井大学 ・ 富山県立大学 ・  
〈関東〉 東京学芸大学 ・ 埼玉大学 ・ 東京農工大 ・ 東京海洋大  
〈関西〉 京都大学 ・ 大阪大学 ・ 神戸大学 ・ 滋賀大学 ・ 大阪教育大  
〈九州〉 鹿屋体育大学  
〈北海道〉 北海道大学

## 私立大学

- 〈中部〉 南山大学 ・ 名城大学 ・ 中京大学 ・ 愛知学院大 ・ 藤田医科大学  
〈関東〉 慶応義塾大学 ・ 早稲田大学 ・ 明治大学 ・ 法政大学 ・ 明治学院大学  
中央大学  
〈関西〉 同志社大学 ・ 立命館大学 ・ 関西大学 ・ 近畿大学  
〈九州〉 福岡大学 など

- **野球部員は、国公立大学を目指して、  
高いレベルの文武両道を目指しています。**
- **大学で野球を続けている卒業生もたくさんいます。**

# 野球部員の出身中学校・中学野球クラブチーム

○ 地下鉄（桜本町駅）・名鉄（桜駅）の駅が近く、交通の便がよいため、  
多方面の中学校から通学しています。（最近5年間の部員の出身中学）

名古屋市内

- 〈緑区〉 滝ノ水中・扇台中・神沢中・鳴子台中・有松中・東陵中  
神の倉中・大高中・鎌倉台中
- 〈天白区〉 天白中・原中・南天白中・久方中
- 〈中川区〉 一柳中・はとり中・八幡中・長良中
- 〈中村区〉 御田中・笈瀬中・日比津中
- 〈瑞穂区〉 汐路中・津賀田中・瑞穂ヶ丘中
- 〈千種区〉 今池中・若水中・愛教大附属名古屋中
- 〈名東区〉 猪子石中・香流中
- 〈南区〉 明豊中・名南中・大江中
- 〈昭和区〉 桜山中・北山中・駒方中
- 〈北区〉 八王子中・北陵中
- 〈西区〉 山田東中
- 〈熱田区〉 沢上中
- 〈東区〉 あずま中

名古屋市外

- 〈知多市〉 旭南中・中部中・八幡中
- 〈豊明市〉 豊明中・栄中・沓掛中
- 〈東郷町〉 東郷中
- 〈東海市〉 平洲中
- 〈犬山市〉 城東中
- 〈大府市〉 大府北中
- 〈清須市〉 清洲中
- 〈弥富市〉 弥富中

○ クラブチームで活躍していた生徒も桜台高校を選んでくれています。

愛知ボーイズ	愛知中央クラブ	愛知知立ボーイズ
愛知知多ボーイズ	尾張ボーイズ	瀬戸シニア
中京カーディナルス	豊明クラブ	名古屋中央ボーイズ
名古屋HBC	西名古屋BBC	瑞穂ブルーウィングス
緑クラブ	FBクラブ	REX名古屋
TKクラブ	Kボール名古屋市選抜チーム	

（五十音順）